

## シンポジウムA

### 【総合診療科の多様性とフィールド展開】

<企画責任者> 藤島 清太郎（慶應義塾大学医学部総合診療教育センター）

司会・演者 藤島清太郎（慶應義塾大学医学部総合診療教育センター センター長）

演者 長尾 和宏（長尾クリニック 院長）

演者 菊池 亮（ファストドクター株式会社 代表医師）

演者 徳田 安春（群星沖縄研修センター センター長）

演者 草場 鉄周（日本プライマリ・ケア連合学会 理事長／

北海道家庭医療学センター）

### <企画概要>

総合診療科は、ジェネラリストへのニーズの高まりを受け、新専門医制度下において新設された我が国独自の基本領域診療科である。従来の臓器別診療科とは異なり、地域診療所・在宅・病院総合診療部門という様々なフィールドでの医療提供が総合診療医の責務である。総合診療のフィールドでは、家庭医療・内科・外科などをベースとする多彩な医師が活躍しており、特に COVID-19 パンデミック下では、ニーズに応えるべく様々な診療形態も創出された。これらのフィールド展開は、社会のニーズを捉えた結果であり、総合診療科が発展する上で積極的に取り込んでゆく柔軟性が必要である。併せて、総合診療医学も、これらの各フィールドで高質な医療を提供し得る医師の育成を第一義とし、体系化されてゆくべきであろう。本セッションでは、総合診療の様々なフィールドで活躍する医師にご講演いただく。総合診療科・医学のあるべき将来像を描く一助になればと考えている。

## シンポジウムB

### 【ここまでできる！ここまでになりたい！：プライマリケア医のがん診療】

<企画責任者> 瀬尾 卓司（瀬尾医院）

司会・演者 西 明博（亀田ファミリークリニック館山）

演者 瀬尾 卓司（瀬尾医院）

演者 東 光久（白河厚生総合病院）

演者 菅家 智史（福島県立医科大学医学部 総合診療医センター）

演者 高岡 沙知（安房地域医療センター）

演者 知念 崇（自治医科大学附属病院 臨床腫瘍科）

演者 天野 慎介（グループ・ネクサス・ジャパン）

演者 小林 崇人（公立浜坂病院）

演者 岸田 徹（NPO 法人がんノート 代表理事）

#### <企画概要>

がん患者の生涯は Cancer Journey と呼ばれるほどに、検診～診断～治療～フォローアップ（小児がん患者はトランジション）、緩和、と長い。その旅に付き添えるのはプライマリケア医しかない。今回、私達ワーキンググループ『がん診療に関するプライマリ・ケアワーキンググループ』は家庭医療専門医、がん薬物療法専門医のダブルボードを取得している医師（総合診療＋腫瘍内科のハイブリッド医師）を含むメンバーから以下の2点を中心としたセミナーを開催したい。レクチャー：プライマリケア医が知っておきたいオンコロジックエマージェンシー、がんを疑うべき身体所見、検査所見 パネルディスカッション：がん患者のプライマリケア医に対する役割・診療への期待 がん患者会・AYA (Adolescent and Young Adult) 世代のがん患者を招き、1に関連してのかかりつけ医の必要性や不満点、要望、改善点などを参加者と共有し、ディスカッションを展開していく。今回の企画が基盤となり、プライマリケア医のためのがん診療研修の一助になると確信している。

## シンポジウムC

### 【病棟教育事例検討会 ～病院総合医第7世代×医学教育エキスパート～】

- <企画責任者> 本田 優希（聖隷浜松病院 総合診療内科）
- 座長 小杉 俊介（飯塚病院 総合診療科）
- 演者 本田 優希（聖隷浜松病院 総合診療内科）
- 演者 合田 建（丹波医療センター 総合内科）
- 演者 酒井 達也（沖縄県立八重山病院 総合診療科）
- 演者 木村 武司（京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター）
- 演者 宮地純一郎（北海道家庭医療学センター 浅井東診療所）

#### <企画概要>

学生も研修医も専攻医も臨床現場での教育は病棟の入院患者診療の教育から始まることが多いのではないのでしょうか。そして、病院総合医の役割、コンピテンシーの1つとして「診療の場において研修医・専攻医を教育する」ことがあります。しかし、病棟での教育について学ぶ機会は決して多いとは言えません。本企画では、病棟回診や新入院症例検討カンファレンス、日々の研修の振り返りといった、日常的な病棟教育のシチュエーションでの若手病院総合医の教育実践例について、うまくいっているところ・うまくいっていないところを含めて紹介します。そして、事例検討会形式で、各事例に対して若手病院総合医に加えて総合診療に造詣の深い医学教育エキスパートも交えてディスカッションします。ディスカッションの中で関連する医学教育学の枠組みや理論についても紹介します。参加者が事例に基づいて医学教育学の枠組みや理論にも触れ、明日からの教育実践に生かせることを目標とします。本企画は日本プライマリ・ケア連合学会 若手医師部門 病院総合医チームが主催します。

## シンポジウムD

### 【総合診療医育成の新たな取組と今後の動き】

<企画責任者> 前田 隆浩（長崎大学）

座 長 井口清太郎 （新潟大学大学院医歯学総合研究科）

座 長 前田 隆浩 （長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）

演 者 野口 裕輔 （厚生労働省医政局医事課）

演 者 塩田 星児 （大分大学医学部総合診療・総合内科学講座）

演 者 渡部 健 （秋田大学附属病院総合診療医センター／総合診療部）

演 者 白石 吉彦 （島根大学医学部附属病院総合診療医センター）

#### <企画概要>

地域医療と総合診療医の深い関連性については枚挙にいとまがない。超高齢社会を邁進する我が国では、近年、地域医療の課題解決に向け総合診療医を育成する新たな動きが始まっている。その中には地域医療構想の推進や、医師偏在指標の設定・公開、医師の働き方改革なども含まれており、事例の一つとして厚生労働省が主導する新たな総合診療医育成プロジェクト「総合的な診療能力を持つ医師養成の推進事業」が令和2年度から進められている。今回、この事業に取り組んでいる秋田大学、大分大学、島根大学にこれまでの成果を紹介してもらおうと共に、総合診療専門医の育成方針や地域枠との連携などについて厚生労働省の考えを聴き、その上で地域医療と総合診療医との関わり、そしてそこに医育大学が関与していく意義などについて議論する。大学が広域に連携した上で、プロダクツを共有し、よりよい総合診療専門医の育成につなぐ方略を考える機会としたい。

## シンポジウムE

【Kick off the International Digital Kaizen Projects led

by Young Family Doctors】

＜企画責任者＞ 吉田 伸（飯塚病院・穎田病院）

座 長 廣岡 伸隆（埼玉医科大学医学部総合診療内科）

座 長 朝倉健太郎（大福診療所）

演 者 葛西 龍樹（福島県立医科大学 医学部 地域・家庭医療学講座）

演 者 佐和 明裕（奈良県立大学）

演 者 齊藤麻由子（富山大学病院総合診療科）

＜企画概要＞

本学会では、2013年より英国家庭医協会や韓国家庭医学会と提携し、双方の若手医師数名を毎年学術大会と診療見学に派遣し、国際的視点と交流を深める活動を続けてきた。一方で派遣者らによる交流活動の現場還元については検証がなく、COVID-19の世界的流行により活動は中断した。今回の活動再開に際して『Digital Kaizen Project』と再定義した。まず2022年度は感染状況の不確実性もあり、日英・日韓の若手医師がオンライン会議で勤務先のプライマリ・ケアを発展させる共通の改善テーマを決めて情報と進捗の共有を行う。そして2023年度は相互に渡航し、現場を見せつつ成果について現地学術大会で発表するという初の2年間コースである。本シンポジウムでは、まず交流事業の設立時の委員より国際交流の魅力について講演を行い、卒業生より国際交流参加後に職場や組織に起きた改善について語り、最後に英国および韓国への派遣者として選抜された若手医師より抱負を発表してもらうことで、学会員にこの企画を伝え、意見や協力をお願いする。

## シンポジウムF

### 【レジェンドたちのポートフォリオ発表会 ～指導医の頭の中を紐解く～2】

<企画責任者> 大塚 勇輝（岡山大学病院総合内科・総合診療科）

司 会 大塚 勇輝 （岡山大学病院総合診療専門医プログラム）

企画者 大道 卓也 （藤田医科大学総合診療プログラム）

企画者 川口 雄史 （宇都宮協立診療所）

企画者 谷村 夏姫 （手稲家庭医療クリニック総合診療専門研修プログラム）

講 師 小嶋 一 （手稲家庭医療クリニック）

講 師 矢吹 拓 （栃木医療センター）

講 師 吉田 伸 （飯塚病院）

講 師 和田 嵩平 （岡山大学病院）

#### <企画概要>

「経験省察研修録」いわゆる「ポートフォリオ（PF）」の作成が新総合診療専門研修でも修了要件となっているものの、特に低年次の専攻医にとってこの課題は馴染みないものであり、どう  
いう内容を・どのように考察するのが良いか専攻医たちの頭を悩ませています。各プログラ  
ム・病院で勉強会が開催され、事例集もいくらかは出版されてはいるものの、いまだ手本・見  
本となるPFが圧倒的に少ないのが現状です。本企画では、そうした専攻医のサポートを日々  
行っている日本プライマリ・ケア連合学会専攻医部会 研修支援部門のメンバーが企画者となっ  
て、専攻医ではなく指導医（＝レジェンド）の先生方を講師に招いてPFを作成・発表してもら  
い、専攻医・研修医も交えてディスカッションします。普段指導医たちがどういう視点で医療  
を捉えているのかPFから学び、相互に質問してレジェンドたちの頭の中を探り合うで、明日か  
らのPF作成、ひいては診療技能の向上に役立てられる企画を目指します。

## シンポジウム G

### 【あなたのアピールポイントはどこでしょう？2022

#### ～多様な働き方と多業種連携によって生まれる関係性を考える（仮）】

<企画責任者> 南郷 栄秀（社会福祉法人聖母会 聖母病院）

座長・演者 南郷 栄秀（社会福祉法人聖母会 聖母病院）

演者 大生 定義（新生病院）

演者 向原 圭（久留米大学医療センター 総合診療科）

演者 斎藤さやか（国立病院機構霞ヶ浦医療センター 総合診療科）

演者 五十嵐 俊（横浜市立市民病院 医療安全管理室）

演者 中島 美紀（キムラ薬局）

#### <企画概要>

近年、医療専門職が診療以外の社会活動を行ったり、起業したりすることは珍しくなくなりました。地域や社会というマクロな視点を持ちつつ、製薬企業や検査会社、介護関連企業、教育産業、メディアなどとコラボレーションすることは、医療という枠組みを超え、社会を発展させる原動力になり得ます。一方、そのようなコラボレーションによって生じるあらゆる利害関係は、しばしば患者や市民へ影響を及ぼします。医師が製薬企業から受ける利益供与をはじめ、医療専門職の仕事には数多くの利益相反が日常的に存在しています。そして、潜在的に影響を及ぼしうる利害関係は、経済的なものに限らず開示する必要があります。利益相反が複雑化している現在では、学会発表や論文投稿の際の利益相反の開示の在り方も変化しています。本セッションでは、利益相反に対する基本的な考え方を整理した上で、今後の利益相反の開示の方法について、みなさんと一緒に考えたいと思います。

## シンポジウムH

### 【実践！プライマリ・ケアでの包括的性教育】

<企画責任者> 川島 篤志（市立福知山市民病院 総合内科）

司 会 川島 篤志 （市立福知山市民病院 総合内科）

演 者 坂井 雄貴 （ほっちのロッヂの診療所、一般社団法人にじいろドクターズ）

演 者 蓮尾 豊 （あおり女性ヘルスケア研究所）

演 者 金久保祐介 （亀田ファミリークリニック館山、  
一般社団法人にじいろドクターズ）

演 者 遠見才希子 （筑波大学大学院ヒューマン・  
ケア科学専攻社会精神保健学分野）

#### <企画概要>

性感染症、ジェンダーやLGBTQに関わる健康格差、避妊をはじめとしたリプロダクティブヘルスなど、性に関する健康問題は数多く存在する。こうした課題の解決のため、ジェンダー平等や性の多様性を含む人権尊重を基盤とし、科学的根拠に基づく「包括的性教育」が国際的にも推奨されている。包括的性教育は、日々の診療を通して地域の健康増進に関わり、近接性・協調性・継続性を強みとするプライマリ・ケア医がまさに専門性を発揮できる分野である。今回の企画では包括的性教育の基本概念および家庭医療の理論基盤との関連についてお伝えした上で、実際に地域で包括的性教育を実践している方々を演者に迎える。多様な視点と専門性からの実践をお伝えし、課題やその解決策についても議論を深めていく。理論と豊富な実践例を通して、地域医療を担うプライマリ・ケア医が明日から包括的性教育を実践するための知識と動機を得られる場としたい。

【進行案】 各シンポジストより下記の演題でお話いただきます。

坂井 雄貴先生：「家庭医療と包括的性教育

ープライマリ・ケアの理念を活かした実践のためにー」

蓮尾 豊先生：「産婦人科校医がプライマリ・ケア医に伝えたい性教育のポイント」

遠見才希子先生：「包括的性教育の伝え方の工夫」

金久保祐介先生：「家庭医診療所と教育機関との連携」



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会  
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

その後、現場での工夫・課題の共有や「明日から実践できるもの」の紹介を含めたディスカッションもしていますので、ご覧ください。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会  
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
2022年6月11日(土) ~12日(日) | パシフィコ横浜

## シンポジウム I

### 【大規模災害を想定した多職種協働による次世代型病院船プロジェクト

～救える命をひとりでも多く救うために～】

＜企画責任者＞ 中村 浩士（呉医療センター・中国がんセンター）

座 長 中村 浩士 （呉医療センター・中国がんセンター）

演 者 長谷川高志 （日本遠隔医療協会）

演 者 山口 太一 （株式会社 FRONT MISSION）

演 者 笠岡 俊志 （熊本大学病院 災害医療教育研究センター）

#### ＜企画概要＞

大規模災害時の際には被災地に医療者と物流を運搬できると共に海上に浮かぶ病院として機能できる病院船は、特に周囲を海に囲まれた日本における有用性は東日本大震災後や東京オリパラ、コロナ禍でも繰り返し論議されているにも関わらず未だに実現していない。病院船の場合、平時での運用が大きな問題であるがコンテナ船ベースにすることで実現性が高くなる。船舶無線に加えて 5G ローカル基地局による被災地全体の通信環境を基盤とした、被災地や避難所におけるオンライン・遠隔診療や、洋上発電による電力供給も可能である。さらに医薬品や救援物資の物流や備蓄基地の役割も担うことで迅速かつ的確なロジスティックも可能となる。さらに日本と世界における災害史や新興感染症に対する drug repositioning についても概説し、コロナを含む複合型災害対策の在り方をも早急に提案したい。

## シンポジウムJ

### 【診療ガイドラインの現状と今後の展望】

<企画責任者> 南郷 栄秀 (社会福祉法人聖母会 聖母病院)

座 長 南郷 栄秀 (社会福祉法人聖母会 聖母病院)

座 長 矢吹 拓 (国立病院機構 栃木医療センター内科)

企画者 岡田 悟 (東京北医療センター 総合診療科)

企画者 宮崎 景 (三重大学医学部名張地域医療学講座)

企画者 五十嵐 俊 (横浜市立市民病院 感染管理室)

企画者 鈴木佳奈子 (4UrSMILE)

#### 演 者

1. 診療ガイドラインの作成方法の歴史的変遷 (宮崎)
2. 質の高い診療ガイドライン作成のための GRADE approach とは (岡田)
3. プライマリ・ケアにおける診療ガイドラインの上手な使い方 (南郷)
4. 医師以外の医療職にとっての診療ガイドライン (五十嵐)

#### <企画概要>

診療ガイドラインが作られるようになって 20 年、当初はコンセンサスガイドラインだったものが次第に進化を遂げて、エビデンスに基づいた診療ガイドラインが確立してきている。ただ、GRADE approach と呼ばれる世界標準のシステマティックレビュー・診療ガイドライン作成方法が開発されて久しいが、現在移行期にあり、新旧の作成方法が混在している。そのため、さまざまな様式の推奨が提示されており、診療現場では混乱の一因となっている。

本シンポジウムでは、診療ガイドラインの作成とその利用方法について概説し、プライマリ・ケアにおける医師やその他の医療職にとっての診療ガイドラインの位置づけと使い方について語る。プライマリ・ケアと診療ガイドラインとの関わり方を通じて、診療ガイドラインの現状と今後の展望について考えてみたい。